

平成22年度 連絡協力促進事業  
「子どもたちのハートをつかめ！」

アサーションをいかしたよりよいコミュニケーションの手法を学ぶことで、不登校の子どもや保護者への対応の仕方などを、より具体的に・実践的に学べる場となりました。また、参加者相互の交流を深めることで、支援体制のネットワークも広がりました。

### 1. 事業実施までの経緯

本事業は日本学校教育相談学会愛媛県支部との共催で、今回14回目を迎えた。実施当初は、学校現場において不登校が大きくクローズアップされ始めた時期であり、当時の交流の家職員と教育相談学会とのネットワークを活用し、学校現場で悩んでいる教職員と共に教育相談をどうとらえればよいか、子どもたちとどうかかわっていけばよいかを考える場としてこの事業をスタートした。平成13年度からは、不登校のみならず、社会的問題にもなっている引きこもりの青年にまで対象を広げている。今回も教育相談学会からの紹介をもとに講師を選定し、よりよい研修会になるよう、学会担当者や講師と連絡を取り合い、打合せを重ねた。例年アンケートで要望されている「より学校現場で実践できる内容を」という視点を重視し、不登校対応の現場で生かせる、アサーションを取り入れたよりよいコミュニケーションの手法を学ぶことをテーマに本事業を企画・実施した。

### 2. ねらい

教育相談にかかわる教職員・施設職員等が、不登校の予防または不登校状態にある児童・生徒及びその保護者の理解と対応の仕方について、教育学的・心理学的見地から研修を行う。

3. 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
4. 共催 日本学校教育相談学会愛媛県支部
5. 後援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会
6. 期日 平成23年1月22日（土）
7. 場所 国立大洲青少年交流の家
8. 参加人数 教職員、不登校対応施設職員、教員を志す学生・社会人等 81名
9. 講師 園田雅代氏（創価大学教育学部教育学科教授）

## 10. 日 程

【1月23日（土）】

9:40 10:20 10:30

12:30 13:30

16:30

22 日 (土)	受 付	開 講 式	講義・演習 園田雅代氏 「不登校の児童・生徒とのコミュニケーションに生かすアサーション」第1部	昼 食	講義・演習 園田雅代氏 「不登校の児童・生徒とのコミュニケーションに生かすアサーション」第2部
----------------	--------	-------------	--	--------	--

16:45

17:20

18:30

19:40

20:00

ふれあい スクール 活動報告	夕 食	日本学校教育相談学会 愛媛県支部 「事例等研究会」	閉 講 式
----------------------	--------	---------------------------------	-------------

## 11. 活動内容

<開講式>

国立大洲青少年交流の家の新山雄次所長と日本教育相談学会愛媛県支部の中野勇理事長が開会の挨拶を述べ、14回目を迎える教育相談に関する研修会「ハートをつかめ！」がスタートした。



<講義・演習>

午前中は、創価大学教育学部教育学科教授である園田雅代氏による講義・演習「不登校の児童・生徒とのコミュニケーションに生かすアサーション第1部」が行われた。講師の自己紹介の後、アサーションとは何かという基本的な知識と理解、不登校の児童・生徒とのコミュニケーションにいかすための手法について、演習の時間を十分に確保しながら、終始、和やかな雰囲気での講義が進められた。コミュニケーションのパターンとして、ノンアサーティブ・アグレッシブ・アサーティブという3つのスタイルの特徴について具体的な事例をもとに確認することができた。



昼食・休憩の後、講義・演習の第2部では、昨年度、この研修会の講師であった伊藤美奈子先生の著書「不登校その心もようと支援の実際」より抜粋した不登校に関する統計資料を活用し、不登校をめぐる子どもの意識や不登校状況の初期状態、言語記述について再確認した。

後半はDESC法というアサーションのスキルを学んだ。D(describe 描写する)、E(express, empathize 表現する 共感する)、S(specify 提案する)、C(choose 選択する)という4つの部分を、自分に少しでもしっくりとくる、自分の話し言葉で台詞を考え、2人組で会話のやり取りをしていくという演習を繰り返し行った。この演習を通して参加者同士の心も自然と開かれ、より活発に意見交換がなされた。実際の現場で子どもや保護者と衝突しそうなとき、また、衝突してしまったときに効果的なコミュニケーションの手法を数多く演習し、スキルアップすることができた。



#### <おおずふれあいスクール活動報告>

今年度の新しい試みの一つとして、学校や適応指導教室の先生方に「おおずふれあいスクール」実態を知ってもらう目的で、12月に行った「ふれあいワークキャンプ」の実践事例を交流の家担当職員が報告した。スクールの様子を県内の学校関係者に知ってもらい、ネットワークを拡大していくために、ぜひ次年度も実施したい。

(発表事例の詳細については本誌40ページを参照)



#### <日本学校教育相談学会愛媛県支部「事例等研修会」>

新しい試みの二つ目として、共催である日本学校教育相談学会愛媛県支部の渡邊俊事務局長による進行のもと、勤務先での不登校対応の事例を6つのグループで話し合った。約1時間という短い時間であったが、参加者それぞれが抱えている悩みを真剣に聞き合い、解決策をアドバイスをしたり、分かち合い励ましあったりする時間をもてた。これまでは、一方的に学習するだけの研修会であったが、小グループでの事例研究から全体発表という、自分たちで作りに上げる研修の部分を入れたことで、より充実した形で1日の研修会を締めくくることができた。



### <閉講式>

アサーションのスキルを活用したコミュニケーションの手法を学び、子どもや保護者とのよりよいかかわり方を再確認し、自信を深めた参加者や、新しい知識を習得しスキルアップできた参加者の表情からは、充実感や満足感が漂っていた。国立大洲青少年交流の家の新山雄次所長と日本教育相談学会愛媛県支部の中野勇理事長が閉会の挨拶を述べ、県内各地から81人の参加者を集め、盛大に開催された14年目の教育相談に関する研修会「子どもたちのハートをつかめ！」は幕を閉じた。



## 12. 参加者の声

参加者の事後アンケート結果

※満足：73% ※やや満足：27% ※やや不満：0% ※不満：0%

- アサーションについて初めて勉強した。まずは自分がアサーティブなコミュニケーションを取れるよう意識したい。ロールプレイ等の練習を多く取り入れた実践的な内容だった。
- DESC法は分かりやすくすぐに学校現場で実践したいと思うほど魅力的なものだった。
- 講義の内容に現場の者が共感できる事例やアドバイスがたくさんあり役立った。
- 「ふれあいワークキャンプ」の報告を聞いて、適応指導教室の子どもたちにもっと強く勧めて参加させればよかったと思った。普及活動をよろしく願いたい。
- 事例等研究会も大変良かった。ただ時間が短くて話が途中になってしまったのが残念。

## 13. 成果と課題

研修プログラムが、例年ほぼ同じ流れになっていたため、事業日数を含め内容の検討が今年度の課題であった。これまで宿泊型の2日間で行っていたものを思い切って1日開催とし、著名な講師による講義・演習、おおずふれあいスクールの実践報告、日本学校教育相談学会愛媛県支部による「事例等研究会」の3本を柱とした研修会に変更した。例年、県内の各種学校や不登校対応施設に協力していただきながら開催要項とチラシを配布しているが、今年度も81名という幅広い職種・年齢層の参加者を集めて研修会を開催することができた。

毎年アンケートで要望されている「より学校現場で実践できる内容を」という視点を重視して講師を選定し、座学だけでなく、アサーショントレーニングの演習の時間もしっかりと確保したことで、より具体的で実践的な研修ができた。アサーションという視点を取り入れた子どもや保護者とのよりよいかかわり方を学ぶことができたことが何よりの成果である。また、おおずふれあいスクールの活動を少しでも学校や適応指導教室の先生方に知っていただけたこと、夜の事例等研修会で先生方の抱える問題や悩みを情報交換できたことで、おおずふれあいスクールと他の適応指導教室、参加者相互のネットワークも広げることができた。

アンケートには「講義・演習の内容、講師の先生共にすばらしく、ぜひ継続してほしい」という意見が多い。「より学校現場でいかせる内容」「演習を柱に置いた研修」という要望は継続して取り入れながら、研修会でつながった参加者のネットワークを強化し、不登校への支援体制や校内に持ち帰ってからの研修体制を確立させること、また、新しい参加者層の開拓が今後の課題である。